



一般社団法人 婦人科がん臨床試験コンソーシアム

## 第 42 回 GOTIC 教育セミナーのご案内

令和 5 年 3 月

GOTIC 正会員・賛助会員の皆様

平素より GOTIC 臨床研究に多大なる御協力を賜り、誠にありがとうございます。  
さてこのたび、第 42 回 GOTIC 教育セミナーを下記の要領で開催いたします。  
オンラインシステム（Zoom）にて大阪公立大学大学院医学研究科 医療統計学  
教室 教授 新谷歩先生に「観察研究のデータ解析～多変量解析と傾向スコア～」  
をご講演いただきます。

お誘い合わせの上、ふるってご参加ください。

GOTIC 理事長

鈴木 光明

GOTIC 教育セミナー企画委員会 委員長 藤原 寛行

### 記

開催日時：令和 5 年 4 月 12 日（水）19：00～20：00 頃まで

開催形態：オンラインシステム Zoom

参加費：無料

（賛助会員には、1 社につき 2 名様までのご参加とさせていただきます）

GOTIC 正会員、賛助会員の皆様はもちろんのこと、研修医、学生の参加も歓迎  
いたしますので、是非お知り合いの方にもご案内ください。

参加を希望される方は、以下 URL より Zoom の事前登録をお願いします。

[https://zoom.us/meeting/register/tJMlc-iupjOrEtbuluJCa9O\\_lufdWjciGXZk](https://zoom.us/meeting/register/tJMlc-iupjOrEtbuluJCa9O_lufdWjciGXZk)

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

# プログラム

---

- 開会の辞

- 講演

「観察研究のデータ解析～多変量解析と傾向スコア～」

大阪公立学院医研究科療統計教室

教授 新谷 歩 先生

無作為割り付けの行われていないリアルワールドデータでは、さまざまな患者の背景によって治療法が選択されるため、治療群とコントロール群で患者の特性が異なり、アウトカムの直接比較が困難となる。解析でこの違いを無視してしまうと、投薬群はコントロール群に比べ病状が悪化していることが多いので、薬剤の効果なし、またはあたかも害であるかのような思いもかけない結果に結びつくことがしばしば起こる。このように比較群間で患者背景の異なりから治療の効果を間違って解析してしまうことを「交絡」と呼び、多くのリアルワールドデータの解析で問題とされている。交絡を防ぐためには多変量解析を用いて背景のデータのズレを調整することが一般的であるが、単変量解析で有意差の出た説明変数のみを多変量解析で選択する等間違っ手順で行われることが多い。本セミナーでは多変量解析のステップや留意点、また交絡の調整で最近広く用いられている傾向スコア解析についても紹介する。

- 閉会の辞

主催 一般社団法人 婦人科がん臨床試験コンソーシアム (GOTIC)